

おやつと英会話で200回

徳山高専 国重教授が開設



トランプを使った英語の用品などで盛り上がる200回目を迎えた「いんぐりっしゅ☆る〜む」 周南市の高専夢広場

「〜む」と話している。

る〜むは毎回同校の教員や学生、留学生、市民、中学生ら20人ほどが集まり、ジュースを飲んだりお菓子を食べたりしながら英会話を楽しんでいる。教員らによる英語のジョークショーも催され人気だ。

国重教授は2004年2月に英語の楽しさを地域に発信し、活性化につなげようと、る〜むをオープン。しかし10人ほどで机を並べて開いた初回は参加者の緊張がなかなか解けず、自己紹介をするのが精いっぱい

だった。そこで思い出したのが、国重教授自身が英語教育の客員研究員としてかつて赴任したハワイ大学の週末の光景。大学院生や研究員らがジュースなどを持ち寄り、おしゃべりを楽しんで研究のストレスを発散させていたことをヒントに、る〜むにフリーで会話を楽しむスタイルを取り入れた。すると次第に同校以外の生徒や英語圏の人、市民ら幅広い層から参加者が集まりだしたという。

200回目には約60人が参加。ケーキや果物、サラダを食べながらジョークショーを楽しんだり、英語で手品を披露して盛り上がった。同校土木建築工学科5年の千葉光さん(22)は「最初は考えながら話していたが、通ううちに会話力が伸び、海外でものりで英語を話せるようになった。面識のない人と気軽に英会話できるのが楽しい」と話していた。

(西川恭子)

周南の「いんぐりっしゅ☆る〜む」

周南市銀座の高専夢広場で毎週金曜に学生や市民が集まって気軽に英会話を楽しむ「いんぐりっしゅ☆る〜む」が、開催200回を超えた。る〜むを始めた国

重徹・徳山工業高等専門学校教授(47)は「構えないで英語をしゃべることができるところを知ってもらえた。る〜むが今後も英語をしつかりと習得する機会になれ